

評価	B
----	---

取組42	生涯学習活動の推進		所属名	生涯学習課					
				達成目標	H20	H21	H22	H23	H24
	ぐんま県民カレッジ入学者数累計(人)			5,960	6,066	6,286	6,424	6,570	6,300
	県立の生涯学習施設の入館者数(人)			748,302	776,412	769,719	741,848	720,402	760,000

【取組結果】

- ① ぐんま県民カレッジ地域委員会の開催（5教育事務所各1回ずつ実施）
県民カレッジ事務局と各教育事務所・市町村教育委員会との効果的な連携を図るため、具体的な課題や対応策等に関する協議を行った。
- ② ぐんま県民カレッジのつどい
県民カレッジで学習した累積単位数が一定の基準に達した受講者に対し、奨励賞を交付するとともに、記念講演会を開催した。
- ③ 生涯学習情報提供システム「まなびねっとぐんま」の更新
県民カレッジの各講座情報を入手する手段のひとつである「まなびねっとぐんま」において、入学者へのタイムリーな情報提供が可能なメールマガジン機能及び登録会員の利用状況を一覧表で管理できる機能を追加した。
- ④ ぐんま県民カレッジ「県民企画型講座」の実施
県民の幅広い知識・経験を社会において有効に活用する仕組みづくりをモデル的に実施するもので、企画提案者が講師となることを前提に、県民から広く具体的な講座の企画を募集し、講座を実施した。

結果・成果を示す実績値	H24	実績値の推移（過去3年間）
ぐんま県民カレッジ「県民企画型講座」の開催	3講座 (各1～3回)	H21：2講座(各3回)、H22：3講座(各1～3回)、 H23：3講座(各1～3回)

【成果】

- ・ぐんま県民カレッジ入学者数は、目標に向け着実に増加している。また、市町村における生涯学習施策が充実してきているので、県全体としての生涯学習の推進は、概ね図られている。
- ・県民企画型講座については、中毛、西毛及び東毛地域において各1講座を開催した。
- ・「まなびねっとぐんま」の利便性向上により、自らに合った利用価値の高い情報を入手でき、学習意欲の向上が図られている。

【課題・対応】

県民の多様化・高度化する学習ニーズに対応するとともに、学習成果を社会参加活動等に結びつけていく仕組みづくりも検討する。

評価	B
----	---

取組43	読書活動の推進	所属名		生涯学習課			
達成目標		H20	H21	H22	H23	H24	H25 (目標値)
読書が好きな児童生徒の割合	(小6)	76.4%	75.3%	75.3%	—	77.1%	80%
	(中3)	73.9%	72.3%	73.4%	—	73.4%	80%
県立図書館の貸出冊数(冊)		448,079	453,001	420,832	450,846	446,831	460,000

【取組結果】

① 県立図書館の図書資料整備

図書資料の充実を図り、特に幼児を対象とした絵本、小中学生が読むのに適した児童図書を整備した。また、図書だけでなく、小中学生向けのものを含む新聞雑誌、マイクロフィルム、電子出版物、外国語書籍、商用データベース等及びCD、DVD等の購入や整備を行った。さらに、課題解決・自立支援型の図書館へ向けた資料の収集も行った。

② 県内図書館の連携及び県内図書館未設置町村への図書支援

県立図書館では、県内公立図書館の中核館として、市町村支援協力車「みやま号」及び「おとおね号」の資料搬送などにより、市町村立図書館、図書館未設置町村への支援及び学校図書館への支援を行った。また、市町村立図書館支援のための専門的資料の充実を図り、リクエストに対しても同協力車を利用した「相互貸借」により迅速に対応した。

③ 子どもの読書環境の整備

「群馬県子ども読書活動推進計画」の実現に向け、児童図書を充実し、子どもや子どもの読書活動推進に携わる者へのサービスの向上に努めた。また、子どもの読書や図書館に対する理解と関心を高める事業として、「図書館こどもフェスティバル」を開催した。

④ 親しまれる図書館づくり

「知るを楽しむ」推進事業として、年5回の講座と年2回の講演会の開催、図書館ボランティア活動支援、群馬県図書館大会の開催など、読み聞かせグループ連絡協議会など各種団体等との連携を通して、県民に親しまれる図書館づくりを一層推進した。

⑤ 学校への支援

図書館未設置町村に対し児童図書1000冊を1年間貸出す1000冊プランを実施したほか、朝の読書活動推進図書セット、学習支援図書セットなどの団体貸出を実施し、学校を支援した。また、学校図書館関係者の資質向上を図るため、実務の基礎を学べる研修や講座を実施した。

(義務教育課：取組2再掲)

⑥ 「ぐんまの子どもにすすめたい本200選」の活用促進

- ・ぐんまの子どもにすすめたい本200選を平成20～21年度にかけて新しく選定し、群馬県教育委員会及び総合教育センターのホームページ上で公開した。
- ・平成21年度にポスター1,000枚を県内義務教育諸学校、公立図書館、県の機関に配布した。また、同年度にしおり10万枚を作成し、県内義務教育段階の児童生徒及び教職員に配布した。
- ・平成21年度改訂版に選定された図書を全て購入し、市町村教育委員会や公立図書館の希望に応じ貸し出した。また、平成24年度は、学校図書館充実事業協力校である板倉町立東小学校へ貸出しを行った。
- ・平成24年度群馬県学校図書館研究協議会西毛大会において200選の本を展示するなど、教員に対する啓発を行った。

【成果】

- ・図書資料の充実と情報提供システムの運営に努めた結果、県民はインターネットを通じた横断検索機能を活用して県内公立図書館等の蔵書約720万冊の情報を入手し、最寄りの図書館での貸出サービスを受けることができるようになっている。なお、この蔵書の相互利用は、県立図書館が運営する市町村支援協力車が各図書館間の資料搬送を担うことによって実現しているものである。

【課題・対応】

- ・県立図書館の運営については、今後は、市町村立図書館との更なる連携強化や人的・物的な支援が求められている。また、県の施策(例えば「家庭教育支援」、「人権教育推進」等)に対する新たな支援や、施策の企画立案への資料提供など、行政支援などの役割が求められる。

施策 7 多様なニーズに応える生涯学習・社会教育を推進する

－ 社会教育を推進する －

評価	B
----	---

取組 4 4	社会教育の推進			所属名	生涯学習課		
	達成目標	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5 (目標値)
	社会教育指導者の育成研修参加者(人)	5 0 5	4 7 4	4 9 9	4 7 9	4 5 0	5 0 0
	県立青少年教育施設の利用者数(人) (4施設合計)	109,823	103,848	108,381	113,531	110,196	120,000

【取組結果】

① 社会教育主事に対する研修

- ・県社会教育主事等職員研修は、県の教育行政の当面する諸課題と対応策等について研修を行い、生涯学習・社会教育の推進について一層の理解を深めることを目的としているが、平成21年度からは県職員の他に市町村教育委員会に属する社会教育関係者も対象とした。
- ・地区別社会教育主事等研修講座を実施(5教育事務所で各1～2回実施)。平成24年度からは、小学校、中学校及び特別支援学校において生涯学習・社会教育に関心があり、本研修を通じて、生涯学習・社会教育に係る理解等が期待できると学校長が推薦する教職員等も対象とした。
- ・新任社会教育委員研修会では、県・市町村の新任社会教育委員を対象に、その職務の遂行に必要な知識や技術等についての研修を行った。

② 青少年の健全育成

県内の小中学校が自然体験活動・集団宿泊活動を実施する施設としての役割を中心に、北毛、妙義、東毛青少年自然の家や群馬県青少年会館においては、自然体験や集団宿泊体験、異年齢・異世代交流等の様々な体験活動の場を、個性や能力、ニーズに応じて提供することにより、子どもたちの主体性や社会性、問題解決能力など「生きる力」を育成した。また、様々な要因で社会とうまく関われない青少年を対象に、自然体験活動や集団宿泊体験活動を通じた事業を実施し、青少年の自立を支援した。なお、東毛青少年自然の家のみが実施していた「わくわく体験塾」(2泊3日)は廃止し、全自然の家が「ぐんまキッズ・アドベンチャー」(4泊5日)を実施することとした。

結果・成果を示す実績値	H 2 4	実績値の推移
ぐんまキッズアドベンチャー 〃 (〃)	116	H21: 79、H22: 78、H23: 78
親子体験活動推進 〃 (〃)	462	H21: 490、H22: 475、H23: 501
自然体験活動推進 〃 (〃)	1,456	H21: 1,186 H22: 1,701 H23: 1,428
青少年自立支援 〃 (〃)	353	H21: 123、H22: 558、H23: 183
学校利用(小中) 校数(校)	315	H21: 317、H22: 340、H23: 373
〃 (小中) 延べ人数(人)	36,619	H21: 30,894 H22: 35,897 H23: 39,362

【成果】

① 社会教育主事に対する研修

- ・県社会教育主事等職員研修において、平成21年度から市町村職員にも対象を広げたことで、県の施策の周知が円滑に行われている。
- ・地区別社会教育主事等研修講座においては、実践発表やワークショップを取り入れるなど地域の実情に即した内容で実施している。
- ・新任社会教育委員研修会では、一斉講義形式ではなく、実践事例の発表等も取り入れることで、社会教育委員としての活動が具体的にイメージしやすくなったとの意見をいただいている。

② 青少年の健全育成

- ・青少年が仲間との自然体験を通して、感性豊かな人間性、規範意識や協調性を養っている。特に、学校利用の場合は、通常の学校生活では行うことが出来ない体験をすることにより、望ましい人間関係を築く態度の形成などの教育的な意義が一層深まるとともに、高い教育効果が認められている。

【課題・対応】

① 社会教育主事に対する研修

- ・社会教育委員及び社会教育主事数は、漸減傾向にあり、研修会の参加者数の大幅な増加は難しい状況であるが、社会教育を推進するため、地区別社会教育主事等研修に教職員等も対象とするなど、社会教育指導者育成に努めていく必要がある。

② 青少年の健全育成

- ・自然体験活動への県民のニーズは高く、募集定員に対する倍率も高い。平成25年1月の中央教育審議会の答申「今後の青少年の体験活動の推進について」を踏まえ、効果的な体験活動を推進するために、プログラムの改善や運営方法の創意工夫に努めていく必要がある。